

化学療法についての注意点

2025 年 3 月作成

化学療法を行うことでお子様に様々な副作用が起こり得ます。症状として出やすいものや、目に見えないものと様々です。こういった副作用があるか、どのようなことに注意すべきかご家族にも知っていただき、お子様と一緒にサポートして頂きたいです。

ご協力の程よろしくお願い致します。

〈目に見えない副作用〉

1. 免疫力が低下し感染しやすい状態になる。

① お子様・ご家族ともに手洗い・うがいをする。

・手洗いのタイミングは、食前、トイレの後、病棟外から戻ってきた時などです。病室の入り口に手洗い場があります。石鹸や手指消毒液、ペーパータオルの準備があるためお子様・ご家族ともにご使用ください。また、ご家族は面会の際に病棟の出入り口にある洗面台で必ず手洗いをお願いします。

・うがいのタイミングは、起床時、食前、病棟外から戻ってきた時などです。うがいは口の中をゆすぐぶくぶくうがいと、喉を洗うガラガラうがいをしてください。

② 風邪症状や嘔吐・下痢などの消化器症状等あれば、面会を控える。

③ 食事に気をつける。

・化学療法を行うことで、生魚や生肉など食べてはいけない物が出てきます。病院食以外のものを食べる場合は、免疫力に応じて制限があります。別紙の補食表を参考にしてください。

・ペットボトルなどは直接口をつけて飲まないでください。ご家族でコップを洗う、または紙コップをご用意ください。ペットボトルは開封後、開封した日付・時間を書き、24 時間を超えた場合破棄してください。

・ご自宅で作られた物は作ってから 2 時間以内の物、且つ病院に着いてから 2 分間電子レンジで温められる物としていますが、適宜医師又は看護師に相談してから持ち込んでください。

※免疫力の状態や付き添いの状況によりお子様それぞれが食べられる物、食べられない物があります。他のお子様との食事の共有はしないでください。補食の物を持ち歩く際は袋やタオルで見えないように包み、補食を食べられる際はカーテンをしめてください。また、匂いのきつい物は控えていただくようお願いします。

2. 貧血状態や出血しやすい状態になる。

化学療法を行うことで、貧血の原因となる赤血球の低下、止血する役割がある血小板の低下が起こります。

① ふらつきや転倒に注意する。

- ・貧血が原因でふらつきやすいため、転倒に注意し、必要時はナースコールを押してください。

② 転倒した時や何かにぶつけた時はすぐにスタッフを呼んでください。

- ・ぶつけた場所や程度によって追加検査を要する場合があります。必要に応じて医師への報告をする必要があるため、ナースコールなどでお知らせください。

- ・点滴のルートや機器のコード類に引っかかりやすいため注意してください。
- ・履物は踵のある物を必ず用意してください。クロックスやスリッパは床に引っかかりやすいため、控えていただきますようお願いします。

③ 出血した際はスタッフを呼ぶ。

- ・「出血しやすい＝止血がしにくい」ということです。鼻血なども止まりにくいため、しっかりとした止血が必要です。スタッフが来るまでティッシュなどで圧迫しててください。

※化学療法中は皮膚が乾燥しやすいため、保湿クリームを使用することをお勧めします。匂いの少ない物であれば持ち込みも可能です。皮膚が乾燥していると感染や出血の原因となることがあります。

〈症状として出やすい副作用とは〉

1. 悪心・嘔吐

① 頓用の吐き気止めを使うことができます。

化学療法で使用する薬剤によって程度は様々ですが、ほとんどの薬剤で悪心・嘔吐を誘発させてしまいます。薬剤を投与する前に吐き気止めの薬剤を投与しますが、頓用の吐き気止めの薬剤を追加することができます。

※頓用薬は 1 日に使用できる回数制限や使えるタイミングがあります。スタッフと相談しながら使用していきましょう。

② お子様に合った食事の調整をしましょう。

症状が原因で食事量が減っていくことがあります。そのため当院では、一品食といった、メニューの選択肢があり食事の量が少ない物や、化学療法食といった薄味で匂いが少ない物への変更ができます。スタッフからもその都度提案させていただきますが、ご家族からのご相談もいただいております。時には病院食

の食器の匂いがダメといったお子様も多くいらっしゃいますので、その際にはご自宅から食器と洗剤の準備をお願いしています。また、匂いから悪心を誘発することが多いため、匂いがきつい食事の持ち込みを控えていただきたいと思います。匂いがお部屋に充満しないようカーテンをするなどして、他の患者様へのご配慮もお願いいたします。

③ 吐物の処理について

→病棟のガーグルベースンをお渡しするのでビニール袋を被せて使ってください。トイレで嘔吐した場合は2回流してください。床やベッドに吐いてしまった場合、スタッフが清掃するのでナースコールで教えてください。

2. 便秘・下痢

① 普段の排便状況を確認しましょう。

化学療法の薬剤によって、便秘や下痢になる可能性があります。普段からの排便状況（1日の排便回数、便の硬さなど）をご家族も知っていただけると、変化に気づきやすくなります。便秘の時も下痢の時も頓用薬で対応することができるため、スタッフにご相談ください。

② お尻の皮膚トラブルに注意しましょう。

排便後はきれいに優しく拭き取ってください。下痢を繰り返すと、お尻の皮膚が荒れる可能性があります。下痢が始まったら、お尻の皮膚にバリアを張る軟膏を使用し、皮膚トラブルの防止をします。看護師も清潔ケアの際には、観察しますがご家族にも観察して頂きたいです。また、便秘は肛門が切れてしまう可能性があります。お尻の皮膚トラブルは感染につながる可能性があるため、気になることがあればスタッフに相談してください。

※薬剤投与終了後48時間は、排泄物（特に尿）には化学療法の薬剤が含まれています。排泄後はトイレの水を2回流してください。男性は尿が飛び散らないように便座に座って排尿して下さい。ご家族への薬剤暴露を防ぐために、尿器をお子様に使用する際には洗面台に置いてある手袋をご使用ください。手袋はトイレの中にあるゴミ箱に捨ててください。おむつはビニール袋に入れて封をし、おむつ用のごみ箱に捨ててください。

3. 口内炎

① 口の中を観察しましょう。

化学療法後3～5日程度で口腔内の腫れぼったい感じや口腔乾燥などの症状が出現し、7～14日頃にかけて赤くなることや潰瘍が出来ることがあります。化学療法後2週間ごろより症状は改善しますが、悪化することで感染に繋がることがあるため、ご家族にも観察をしていただきたいと思います。口腔内に違和

感があった時点で、痛みの緩和や炎症予防の効果があるうがい薬（スペシャル含嗽）の処方依頼ができるため、少しの変化でもスタッフに伝えてください。

② 歯磨きをしっかりしましょう。

毎食後とできれば寝る前にも行ってください。食事が取れていない時も口腔内には菌が繁殖しているため、歯磨きは必ずしてください。歯肉出血予防のため、柔らかい歯ブラシを使用してください。歯ブラシはしっかり乾燥させてから保管してください。口内炎があり、痛みを伴う際にはスポンジブラシなどの使用もおすすめです。

③ 口唇の乾燥予防のため、リップクリームを使用しましょう。

※口腔内に気になることがあれば、歯科医師・衛生士の診察を受けることができます。希望があればスタッフにお知らせください。（診察代が発生することをご了承ください。）

4. 脱毛

① 髪の毛・頭皮のケアをしましょう。

脱毛は、化学療法開始後 10 日後頃から始まります。脱毛することで洗髪や髪をとくのを嫌がるお子様も少なくありません。しかし、頭皮のトラブルは症状を悪化させるリスクがあるため、しっかり清潔にすることを勧めていきます。また、櫛で髪の毛をとかないことで抜けた髪が絡まり、切らなければならなくなることもあります。シャンプーは、低刺激の物を持参していただくようお願いします。バンダナや通気性の良い帽子を用意しましょう。

保温や保護のためです。お子様とどのようなキャラクターや柄・素材が良いか相談し、事前にご用意してください。バンダナや帽子ではなく、ウィッグのご紹介もできるため、スタッフにご相談ください。

※化学療法終了後 1～2 ヶ月程度で発毛し、半年～1 年で元の状態に戻っていきます。

お子様それぞれで出現する症状は様々です。わからないことや気になる症状があれば、いつでも医師、看護師にご相談ください。